

昭和20年							略歴	摘要
年月日								
1	3	8	8	9	9	9		
16	10	9	17	13	13	中旬	<p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p> <p>黒河省孫呉において独立混成第七三旅団野砲隊の一部を基幹として編成完結。</p> <p>同日より孫呉付近の警備ならびに陣地構築。</p> <p>日「ソ」開戦とともに主力は孫呉主陣地に対し弾薬糧秣を輸送するとともに一部をもつて二宝山を占領し師団主力の戦闘に参加。</p> <p>主力は孫呉において解散して南下したが途中「ソ」軍および満人の襲撃を受け辰清、竜鎮付近で損害をうけ北安に到着したものは僅かであった。</p> <p>北安において第一、建第二作業大隊に編入。</p> <p>北安出發。</p> <p>黒河経由入「ソ」。</p>	<p>連隊長</p> <p>少佐 安倍武雄</p>

輜重兵第一二三連隊略歴

通称号 満第四四八部隊
松風第一五二〇八部隊

略

歴

摘要

0458

							昭	年 月 日	略 歴
							20		
							1		
							9	9	第一二三師団兵器勤務隊略歴 通称号 満第二五部隊 松風第一五二〇九部隊
							16	15	
							14	17	
							8	8	軍令陸甲第九号により編成下令。 黒河省孫呉において編成完結。 同日より孫呉付近の警備。 孫呉、北水台陣地に移動。 兵器弾薬の輸送。 孫呉において武装解除。 孫呉において第六作業大隊に編入。 孫呉出発。 黒河經由入「ソ」。
							3	10	
							8	12	
							9	14	
							9	16	
隊長 大尉 清水 吾一									摘要

0459

昭 20	年	第一二三師団第一野戦病院略歴 通称号 松風第一五二二三部隊
9 9 8	月	
16 14 10	日	
<p>孫呉第一陸軍病院よりの差出人員をもつて黒河省孫呉において編成完結。 爾後戦傷病者の患者収容、治療等の病院勤務に従事。 主力は孫呉出発、黒河経由入「ソ」。 一部は孫呉出発黒河経由入「ソ」。</p> <p>病院長 医中尉 佐藤 愛平</p>		略
		歴
		摘要

0460

昭和20年		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
第一二三師団病馬廠略歴																									
通称号 満第六一八部隊 松風第一五二一〇部隊																									
略歴																									
<p>軍令陸册^甲第九号により編成下令。 黒河省孫呉において編成完結。 爾後同地にありて病馬収容業務に従事。 日「ソ」開戦。 孫呉において武装解除。 孫呉において第一七作業大隊に編入。 孫呉出発。 黒河經由入「ソ」。</p>																									
廠長 獣医大尉 榎本由成																									
摘要																									

0461

至自 至自 至自 至自										昭 20	年 月 日	第一四九師団司令部略歴 通称号 不逞才三七三四一部隊			
10	10	9	9	8	8	8	8	8	8	7	7		概 要		
20	9	30	20	30	10	13	28	23	15	15	14	9		30	10
綏分河經由入「ソ」 海林出發 下士官および兵は海林才一〇五、一〇六作業大隊に編入 牡丹江省海林に集結 哈爾濱孫家兵舎において武装解除 停戦 哈爾濱着 浜江省哈爾濱に転進のため齊々哈爾出發 日「ソ」開戦 爾後齊々哈爾附近の防衛に任じた つて編成完結 龍江省齊々哈爾において才四軍各隊からの抽出人員を基幹とし在満応召者をも 軍令陸甲才一〇六号により編成下令															

0462

	11	11	11
	7	6	1
隊長 中将 佐々木 到 一	綏芬河經由入「ソ」	牡丹江出発	将校は牡丹江才一作業大隊に編入

		昭 20		年 月 日		概 要	通称号 不撓満才八四部隊 才三七三四二部隊
7	7	7	7	4	2		
30	28	10	3	20	20	16	
歩兵才三八七連隊に転属後の残余の歩兵才二七四連隊を基幹として在満応召者		齊々哈爾着		員は歩兵才三八七連隊の基幹要員として転属		才三大隊本部、才七、才九中隊才三機関銃中隊の全員および才四中隊の一部の人員は歩兵才三八七連隊の基幹要員として転属	
成才一三五旅団に転属		軍令陸甲才一〇六号により編成改正下令		才二大隊和田少佐以下全員は独立混		龍江省齊々哈爾に移駐のため山神府出発	
遣それぞれ警備に任じた。		爾後国境守備のため、法別拉、北門鎮、神武屯、山神府、達音山等の陣地に派		遣それぞれ警備に任じた。		山神府に移動、同日山神府着、この際才二大隊（和田少佐）を国境警備に残置	
才二七四連隊を編成完結		軍令陸甲才九号により編成下令		黒河省北門鎮において才七国境守備隊の歩兵隊を基幹として才一二五師団歩兵		才二七四連隊を編成完結	

歩兵第二七四連隊略歴

通称号 不撓満才八四部隊 才三七三四二部隊

概

要

摘要

0464

至自	至自	至自	昭 20	至自	至自	至自				
109	99	99	8	109	99	99	8	8	8	8
318	2715	2415	18	914	308	30初	27	18	13	9
<p>をもつて才一四九師団歩兵才二七四連隊を編成 爾後齊々哈爾周辺にて陣地構築 日「ソ」開戦 才三大隊本部、連隊行李、才一大隊、才三大隊行李、乘馬小隊の各馬取扱い兵 を齊々哈爾に残留し主力は浜江省哈爾浜に転進 哈爾浜において武装解除（現地召解四〇〇名） 牡丹江省海林に集結 海林才一八、才一〇五、才一〇六作業大隊に編入 海林出発 綏芬河を經由入「ソ」 齊々哈爾残留群行動 齊々哈爾において武装解除 齊々哈爾才三、才八作業大隊に編入 齊々哈爾出発 満洲里經由入「ソ」</p>										
<p>隊長 大佐 宮岸 初次</p>										

0465

至自至自		至自					昭 20		年 月 日	概 要	通称号 不撓才三七三四三部隊
9999		98	8	8	8	8	7	7			
30 ^中 2013 _旬		1320	20	18	15	9	30	10			
<p>北安出發 黒河經由入「ソ」</p>		<p>北安、湯浅、楠、奥隅木、寺坂 各將校大隊に編入</p> <p>同地において武装解除</p> <p>北安において現地召集解除約二〇〇名</p> <p>停戦</p> <p>北安北方約四軒の地点において陣地構築中「ソ」軍機の攻撃をうけたが損害なし</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>爾後同地付近の警備</p>					<p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令</p> <p>北安省北安において歩兵才二六九連隊の一大隊を基幹として現地応召者をもつて編成完結</p>		<p>摘要</p>		

歩兵第三八六連隊略歴

通称号 不撓才三七三四三部隊

0466

74602

隊長
大佐
近藤
藤
猛
夫

0467

至自 至自		昭 20		年 月 日		概 要	通称号 不撓才三七三四部隊
109	99	8	8	8	7		
815	148	23	18	15	30	10	
						摘 要	

歩兵第三八七連隊略歴

通称号 不撓才三七三四部隊

0468

					至自	
		9	9	9	8	109
		19	17	16	20	1014
		滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出発	齊々哈爾才五作業大隊編入	齊々哈爾において武装解除	齊々哈爾残留群
隊長	中佐	真	方	信	雄	

0469

										年月日	概 要	通称号 不撓才三七三四五部隊	
										昭和20			
9	8	8	8	8	8	8	8	7	7	30	10	<p>第一四九師団挺進大隊略歴</p>	
1	28	23	20	15	12	10	9	<p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令 龍江省齊々哈爾において才一四九師団の各隊より差出しの現役兵を基幹として 現地応召者をもつて編成完結 爾後同地付近の警備 日「ソ」開戦 哈爾濱転進のため齊々哈爾出発 浜江省哈爾濱着、爾後哈爾濱市郊外の警備 同地において停戦 哈爾濱競馬場に移動 同地において武装解除 哈爾濱出発 牡丹江省海林着 同地に集結 将校は將校大隊に編入</p>					
												摘要	

0470

		10	9 9
		2	30 10
	隊長 大尉 大森 寿夫	海林出発 海林第一〇五作業大隊に編入 緩分河経由入「ソ」	

0471

野砲兵第一四九連隊略歴										
通称号 不撓才三七三四六部隊										
年 月 日										
概 要										
摘 要										
昭 20	1	2	4	6	7	7	7	8	8	8
16	10			29	10	21	30	9	12	14
<p>軍令陸甲才九号により編成下令 黒河省、神武屯において才七国境守備隊、才一三国境守備隊、野砲兵才五七連隊からの抽出人員を基幹として野砲兵才一二五連隊を編成完結 神武屯出発 同日山神府着 爾後同地付近の警備 龍江省齊々哈爾に移駐のため行軍にて出発 軍令陸甲才一〇六号により編成改正下令 齊々哈爾着 齊々哈爾において野砲兵才一二五連隊を野砲兵才一四九連隊に改称 爾後同地付近の警備 日「ソ」開戦 主力は浜江省哈爾濱に移駐 一部は齊々哈爾に残留 主力は哈爾濱競馬場着</p>										

0472

昭20-11-11

至自	至自	至自	昭 20		昭 20	至自 21	至自 21		至自			
1010	109	109	8		11	11	311	310	10	9	99	8 8
213	1227	1014	18		7	3	1117	912	9	20	121	26 18
<p>隊長 少佐 吉岡貞三</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>齊々哈爾出発</p> <p>齊々哈爾才八、才一三作業大隊に編入</p> <p>齊々哈爾兵器廠において武装解除</p> <p>齊々哈爾残留群の行動</p> <p>綏芬河經由入「ソ」</p> <p>将校は牡丹江出発</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>海林才一三〇、才一五一作業大隊海林出発</p> <p>綏芬河經由入「ソ」</p> <p>才一〇六作業大隊海林出発</p> <p>下士官兵は海林才一〇六、才一三〇、才一五一作業大隊に編入</p> <p>将校は牡丹江将校才一作業大隊に編入</p> <p>牡丹江省海林着</p> <p>同地において武装解除</p>												

至自 至自 至自										昭 20	年 月 日	工兵第一四九連隊略歴
109	99	109	8	8	8	8	8	7	7			
2720	2718	817	18	15	11	9	7	30	10			
滿洲里經由入「ソ」 齊々哈爾出發 齊々哈爾才六、才八、才十一作業大隊に編入 同日現地応召者召集解除 齊々哈爾兵器廠において武装解除 停戦 爾後同地付近の防衛 再び富拉爾基より齊々哈爾に移駐 日「ソ」開戦 部隊は龍江省富拉爾基に移駐 より若干の幹部要員と現地応召者をもつて編成完結 龍江省齊々哈爾において独立工兵才二九連隊より転入者を基幹とし才四軍各隊 軍令陸甲才一〇六号により編成下令										概	通称号 不撓才三七三四七部隊	
										要	摘要	

0474

隊長 少佐 小笠原 重成

至自 至自										昭 20		年 月 日	第一四九師団通信隊略歴		
9	11	10	9	9	8	8	8	8	8	7	7			概	通称号 不撓才三七三四八部隊
12	8	13	30	4	25	20	15	14	9	30	10				
海林才一三〇作業大隊 海林出発 綏芬河經由入「ソ」 海林、才一〇五、才一二六、才一三〇作業大隊に編入 海林才一〇五、才一二六、才一三〇作業大隊に編入 牡丹江省海林に集結 哈爾濱競馬場において武装解除 哈爾濱において停戦 濱江省哈爾濱に移動 日「ソ」開戦 爾後同地において通信業務に従事 四九連隊よりの抽出人員を基幹として編成完結															

0476

	11
	17
隊長 中隊 有 吉 峰 雄	滿洲里經由入「ソ」

年月日		概		要		摘要		
昭 20	20	8	8	7	7	7	7	
2	1	15	9	30	25	10	7	
10	16	<p>軍令陸甲才九号により編成下令 黒河省神武屯において才七国境守備隊才一三国境守備隊、輜重兵才五七連隊の 抽出人員をもつて輜重兵才一二五連隊を編成完結 爾後同地付近の警備 黒河省山神府に移駐のため神武屯出発 同日山神府着、同地付近の警備 龍江省齊々哈爾移駐のため行軍にて同地出発 軍令陸甲才一〇六号により編成改正下令 齊々哈爾着 齊々哈爾において野砲兵才一二五連隊を野砲兵才一四九連隊と改称 爾後同地付近の警備 日「ソ」開戦 停戦</p>						通称号 不撓才三七三四九部隊

輜重兵第一四九連隊略歴

通称号 不撓才三七三四九部隊

0478

	至自	至自	至自	
	109	109	109	8
	2718	915	815	20
隊長 少佐 小川 清 忠	満洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	齊々哈爾才三、才八、才一作業大隊に編入	齊々哈爾において武装解除

0479

至自		昭 20		年 月 日		概 要	通称号 不撓才三七三五〇部隊	摘 要																	
99	8	8	8	8	8				7	7	7	5	5												
151	末日	20	15	10	9	30	10	上旬	31	1															
海林才一〇四、才一五一作業大隊に漏入		牡丹江海林集結		哈爾濱において武装解除		同地において停戦		哈爾濱着		日「ソ」開戦と同時に浜江省哈爾濱に移駐		齊々哈爾において才一二五師団兵器勤務隊を才一四九師団兵器勤務隊と改称		軍令陸甲才一〇六号により編成改正下令		山神府より行軍にて龍江省齊々哈爾に移駐約一ヶ月にて齊々哈爾着		爾後同地付近において各部隊の兵器修理作業に従事		五師団兵器勤務隊を編成完結		黒河省山神府において才一二五師団隷下部隊よりの差出し人員をもつて才一二		軍令陸甲才七五号により編成下令	

第一四九師団兵器勤務隊略歴

通称号 不撓才三七三五〇部隊

0480

	昭 20	昭 21			
	11	3	3	10	9
	7	3	11	8	15
隊長 中尉 浜口英藏	緩 芬 河 経 由 入「ソ」	牡 丹 江 出 発	將 校 は 牡 丹 江 宮 岸 作 業 大 隊 に 編 入 し	滿 洲 里 経 由 入「ソ」	海 林 才 一 〇 四 作 業 大 隊 は 海 林 出 発
				緩 芬 河 経 由 入「ソ」	
				海 林 才 一 五 一 作 業 大 隊 は 海 林 出 発	

								年 月 日		第一四九師団病馬廠略歴
								昭和 20		
8	8	7	7	7	7	4	2	1	通称号 不撓才三七三五一部隊 概要 軍令陸甲才九号により編成下令 黒河省神武屯において才一二五師団隷下部隊よりの人員をもつて才一二五師団 病馬廠を編成完結 爾後同地において師団管下の病馬の収療に任じた。 山神府に移駐のため神武屯出発 同日出神府着 龍江省齊々哈爾に移駐のため行軍にて山神府出発 軍令陸甲才一〇六号により編成改正下令 齊々哈爾着 齊々哈爾において才一二五師団病馬廠を才一四九師団病馬廠と改称 爾後同地において師団管下の病馬の収療 日「ソ」開戦 停戦	
15	9	30	28	10	5	20	20	16		摘要

0482

	至自	至自	至自	
	109	109	109	8
	2118	1215	1015	18
隊長 中尉 梅 沢 長一郎	滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	齊々哈爾才三、才一一、才一三作業大隊に編入	齊々哈爾兵器廠に集結、武装解除

至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴		
11	11	8	8	3	6			4	1
18	15	13	17	9				20	16
<p>海拉爾出發</p> <p>海拉爾第一、第三作業大隊に編入</p> <p>同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容</p> <p>海拉爾二地区障地において武装解除</p> <p>この間海拉爾二地区障地（河南台）において「ソ」軍と激烈な戦闘を交えた。</p> <p>海拉爾二地区障地において武装解除</p> <p>同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容</p> <p>海拉爾第一、第三作業大隊に編入</p> <p>海拉爾出發</p>									
							摘要		

独立混成才八〇旅団司令部略歴

通称号

満第七〇三部隊
鋭鋒第二五二八五部隊

略

歴

摘

要

0484

75502

至 自

11 11

18 15

滿州里經由入「ソ」

司令官

少將
野村登亀江

0485

至 自		至 自		至 自		昭 20	年 月 日	略 歴	独立歩兵才五八三大隊略歴												
11	11	11	8	8	8	8				8	7	4	1								
18	15	15	18	17	9	9				7	1	20	16								
海拉爾出発		海拉爾第一第二作業大隊に編入		二地区陣地において武装解除され、同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容		海拉爾二地区陣地で「ソ」軍の包囲攻撃を受け甚大な損害を蒙つた。		主力の状況		主力を哈南鱒岡陣地に配備		日「ソ」開戦にともない、主力を海拉爾二地区陣地（河南台）に、第四中隊の		第一第三中隊から興安嶺陣地構築援助のため数回にわけて派遣		成完結		興安北省海拉爾において臨時混成第六〇一大隊よりの抽出人員を基幹として編		軍令陸甲第九号により編成下令	
											摘要										

0486

至 自						至 自	
9	9	9	8	8	8	8	11 11
23	23	11	17	16	9	13	25 18
<p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>哈南、鮪岡派遣隊の状況</p> <p>哈南、鮪岡を出発して興安嶺に向つたが途中数行動群に別れて行動し、博克図をへて齊々哈爾に到着。その後同地編成の作業大隊に分散編入され入「ソ」</p> <p>興安嶺派遣隊の状況</p> <p>日「ソ」開戦により陣地補強中停戦となり直接戦闘せず。</p> <p>博克図に集結</p> <p>博克図第二作業大隊に編入</p> <p>博克図出発</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>大尉 谷口 猛</p>							

0487

										昭和20		年 月 日	独立歩兵才五八四大隊略歴	
至自					至自					略				略
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	略	略			
11	11	11	11	11	8	8	8	8	8	4	1	軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において歩兵第二五四連隊からの要員を基幹として編成完結 爾後同地付近の警備 日「ソ」開戦にともない部隊主力を海拉爾一地区陣地（安保山）に第三中隊主力を五地区陣地（伊東台）に一部を七地区に配備した。 主力の状況 海拉爾一地区陣地で「ソ」軍の包圍攻撃を受け殊に十三日以降は陣地の争奪戦を行ない甚大な損害を蒙つた。 一地区陣地において武装解除、同日第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に收容 海拉爾第一二作業大隊に編入 海拉爾出發 満洲里經由入「ソ」	通称号 満第五五八部隊 鋭鋒第二五二八七部隊	
25	18	18	15	15	18	17	9	9	20	16	16	摘要		

0488

				自 至			
				8	8	8	8
				18	14	17	9
<p>五地区、七地区陣地の状況</p> <p>「ソ」軍の攻撃を受けて多数の戦死生死不明者をだした。</p> <p>以降一部の者は陣地を脱出して博克図に向かつて後退し停戦後博克図編成の作業大隊に編入し入「ソ」</p> <p>主力は陣地において武装解除後同地兵器廠に收容後部隊主力に合流し爾後同一行動</p> <p>なお七地区陣地派遣隊は日「ソ」開戦後消息不明で玉砕したものと判断される</p> <p>隊長 少佐 竹中武臣</p>							

0489

				昭 20	年		
10	10	9	8	7	4	1	月
11	9	中旬	10	27	20	16	日
<p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>博克圖出発</p> <p>博克圖第五第六作業大隊に編入</p> <p>後同地において武装解除</p> <p>途中「ソ」軍の追尾攻撃を受けて更に小行動群に別れ博克圖、齊々拉爾に到着</p> <p>主力の行動</p> <p>「ソ」軍と交戦十四日概ね各中隊に別れ興安障地向かい撤退開始</p> <p>第一中隊は日「ソ」開戦前より第一一九師団三河警備隊に配属し、開戦後は警備隊長団少佐の指揮下により同部隊と行動を共にした。(その状況は第一一九師団三河警備隊の略歴参照)</p> <p>爾後同地付近の警備</p> <p>部隊主力は烏奴耳付近の障地構築のため同地に移動</p> <p>興安北省海拉爾において歩兵第二五四連隊からの要員を基幹として編成完結</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>							
<p>通称号 満第五五九部隊</p> <p>銳鋒第二五二八八部隊</p>							
<p>独立歩兵才五八五大隊略歴</p>							
<p>略 歴</p>							
<p>摘要</p>							

		自 至								
		11	11	11	8	8	8	9	9	9
		25	15	15	18	17	9	29	21	21
		<p>一部齊々哈爾第七作業大隊に編入 齊々哈爾出發 滿洲里經由入「ソ」 海拉爾殘留隊 是枝少尉の指揮のもとに海拉爾二地区陣地（河南台）において「ソ」軍と激戦を交え甚大な損害を蒙つた。 陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に收容 海拉爾第二作業大隊に編入 海拉爾出發 滿洲里經由入「ソ」</p>								
	隊長									
	大尉 藤堂 駒次郎									

		昭 20		年	
		4 1		月	
		20 16		日	
				独立歩兵才五八六大隊略歴	
				通称号 満第二八三部隊 鋭鋒第二五二八九部隊	
				略	
				歴	
				摘要	
8	8	4	1	<p>軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において臨時歩兵第六〇二大隊の人員を基幹として編成完結 部隊を左のとおり配備し国境警備に任じた。</p> <p>1. 満洲里 本部第四中隊の一ヶ小隊 大隊行李の一部</p> <p>2. 札来諾爾 第二中隊歩兵砲小隊 大隊行李主力</p> <p>3. 磋 崗 第四中隊主力</p> <p>4. 海拉爾四地区 第一中隊第三中隊 機関銃中隊主力</p> <p>5. 哈克陣地 機関銃中隊の一部</p> <p>日「ソ」開戦後の各中隊の状況は次の通り</p> <p>満洲里、札来諾爾、磋崗部隊</p> <p>満洲里、札来諾爾部隊は海拉爾に向つて各々の警備地を出発</p>	

0492

		自			至		
		8	8	8	8	8	8
		9	13	12	10	19	9
		10	17	15	10	10	10
		下旬					
隊長	大尉	石指	律				
<p>磯岡部隊も警備地を出発して海拉爾に向つた。</p> <p>各隊は海拉爾に向かう途中「ソ」軍の猛追撃と炎熱のため、その大半のものが戦死又は行方不明となり、ようやく海拉爾付近に到着したのも十九日海拉爾西方の「ソ」軍急設飛行場付近において「ソ」軍の攻撃を受けて、脱出したものは僅か十数名のみであつた。</p> <p>海拉爾四地区部隊の行動</p> <p>「ソ」軍の攻撃を受けたが大なる損害なし</p> <p>夜陣地を撤退して第一集結地を四地区南方梅ヶ丘陣地としたが一部直接興安嶺に向つたものもあつた。</p> <p>主力は梅ヶ丘陣地に到着、同地において再度「ソ」軍の攻撃を受け甚大な損害を受け一部同夜同地出發博克圖に向つた。</p> <p>哈克派遣隊</p> <p>日「ソ」開戦直後博克圖方面に後退を開始したようであるが状況不明</p> <p>以上の如く撤退行動は少人数毎に区々のため統制ある武装解除は受けていないが、博克圖で武装解除されたものは次のとおり行動している。</p> <p>博克圖第六作業大隊に編入</p> <p>博克圖出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p>							

至 自				至 自				昭 20		年 月 日	独立歩兵才五八七大隊略歴	
11	11	11	8	8	8	8	8	4	1			通称号 満第七〇〇部隊 鋭鋒第二五二九〇部隊
18	15	15	18	17	9	9	7	20	16			
海拉爾出発				主力の状況				軍令陸甲第九号により編成下令		摘要		
海拉爾第一第二作業大隊に編入				開戦にともない大隊長以下主力は海拉爾三地区陣地（砂山）を守備し「ソ」軍と戦闘を交えたが大なる損害はなかつた。				興安北省海拉爾において臨時第六〇一大隊を基幹として編成完結				
陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容				その間大沢見習士官以下十数名を満洲里方面の状況偵察に派遣し全員消息不明となつた。				爾後同地付近の警備				

			自	至	自	至
			8	8	11	11
			16	9	25	18
			9	9	9	
			23	23	11	
<p>興安嶺派遣隊の行動</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>日「ソ」開戦にともない陣地の補強に従事中停戦となる。</p> <p>ただし「ソ」代見習士官以下約五〇名は伊列克得北方中村山において「ソ」軍と激戦を交え、その約半数が戦死又は生死不明となり脱出者は博克図北方山中を迂廻して齊々ハ爾に向う途中ほとんどの者が戦死した。</p> <p>博克図第二作業大隊に編入</p> <p>博克図出発</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>大尉 国生 岩 男</p>						

至 自		昭 20	年	独立混成 才八〇旅団 挺進大隊 略歴
		7	月	
		10	日	
8	8	8	7	通称号 鋭鋒第二〇七一四部隊 軍令陸甲第一〇六号により編成下令 興安北省海拉爾において独立混成第八〇旅団隷下各隊からの抽出人員をもつて 編成完結 主力は海拉爾二地区（河南台）一部は海拉爾各地区の陣地に配備して陣地構築 に任じた。 配備区分 主力（第一、第三中隊各主力、第二中隊、行李） 二地区（河南台） 第一中隊二ヶ小隊 一地区（安保山） 第一中隊一ヶ小隊 四地区（東山） 第三中隊三ヶ小隊 三地区（砂山） 同 一ヶ小隊 鮡 岡
18	18	9	1	
この間各陣地で激烈な戦闘を交えた。 特に第二中隊主力は一〇二号陣地で又第一中隊の主力は一〇二号陣地で甚大な損害をうけた。 一地区、二地区、三地区の部隊は各陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠				
			略	摘要

0496

至	自	至	自	至	自
8	8	11	11	11	11
11	10	25	18	18	15
<p>海拉爾支廠内に収容</p> <p>海拉爾第一第三作業大隊に編入</p> <p>海拉爾出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>四地区、鮎岡付近の部隊は陣地を撤退し博克図に向かったが途中「ソ」軍の攻撃を受けて四散し統制ある武装解除等は受けず、博克図、齊々哈爾等の作業大隊に編入されて入「ソ」した。</p> <p>隊長</p> <p>大尉 米田三郎</p>					

昭										年	月	日	略	歴	摘	要
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自							
11	11	11	11	11	8	8	8	8	5							
25	18	18	15	15	18	17	9	8	10	20	16					
<p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>海拉爾出発</p> <p>海拉爾第一第二作業大隊に編入</p> <p>陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠に収容</p> <p>日「ソ」開戦とともに海拉爾三地区陣地（砂山）に配備し三河、満洲里方面および「ノモンハン」方面から進攻して来た。「ソ」軍と激戦を交えた。</p> <p>主力の状況</p> <p>この間興安嶺の陣地構築援助のため数次に亘り少数人員を派遣し、その総員は約一二〇名である。</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p> <p>興安北省海拉爾において臨時混成六〇〇旅団砲兵隊および野砲兵第一一九連隊からの抽出人員をもつて編成完結</p> <p>主力は海拉爾に駐屯して陣地構築および初年兵教育に従事</p>										<p>独立混成才八〇旅団砲兵隊略歴</p> <p>通称号 満第七三七部隊 鋭鋒第二五二九一部隊</p>						

0498

		至 自		至 自		至 自					
		9	9	9	10	9	10	9	10	9	8
		20	21	21	下旬	23	17	23	15	11	9
興安嶺派遣隊の行動											
日「ソ」開戦後も陣地の補強に従事中停戦となる。											
博克図第三第六作業大隊に編入											
博克図出發											
滿洲里經由入「ソ」											
一部は齊々哈爾第七作業大隊に編入											
齊々哈爾出發											
滿洲里經由入「ソ」											
隊長											
大尉 松岡 栄次郎											

至 自		至 自		至 自					昭 20	年	独立混成才八〇旅団工兵隊略歴
11	11	11	11	11	8	8	8	7	4	月	
25	18	18	15	15	18	17	9	上旬	20	日	
満洲里經由入「ソ」		海拉爾出発		海拉爾第一、第二作業大隊に編入			海拉爾二地区障地（河南台）において「ソ」軍と激戦を交え多数の戦死者をだした			海拉爾二地区障地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容	
				主力の状況			竹平伍長以下約六〇名第一一九師団障地構築作業援助のため興安嶺に派遣			爾後海拉爾二地区障地（河南台）、哈南館岡障地の構築作業	
							出人員をもつて編成完結			興安北省海拉爾において臨時混成六〇〇旅団および工兵第一一九連隊からの抽	
										軍令陸甲第九号により編成下令	
										通称号 満第一九七部隊 鋭鋒第二五二九二部隊	
										略	
										歴	
										摘要	

0500

至 自		至 自		至 自		昭 20		年 月 日	独立混成才八〇旅団通信隊略歴														
11	11	11	11	11	8	8	8			4	1												
25	18	18	15	15	18	17	9			20	16												
隊 長 少佐板垣恭二		滿洲里經由入「ソ」		海拉爾出發		海拉爾第一第二作業大隊に編入		停戦により各陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に收容		信連絡に従事		一地区(安山) 三地区(砂山) 四地区(東山) 五地区(伊東台) に派遣し通		爾後同地にありて通信教育に従事		日「ソ」開戦に伴ない主力は海拉爾二地区陣地(河南台) に入り若干名あて、		完結		興安北省海拉爾において第一一九師団隷下各部隊よりの抽出人員をもつて編成		軍令陸甲第九号により編成下令	
通称号 滿第二二六部隊 銳鋒第二五二九三部隊										略		歴		摘 要									

0502

昭 20		年		月		日	
11	8	8	8	8	6	4	1
15	18	17	10	9	初	20	16
<p>至 自</p>							
<p>海拉爾第一第二作業大隊に編入</p> <p>主力は二地区陣地において武装解除後第一八野戦兵器廠海拉爾支廠内に収容</p> <p>その他のものは生死不明</p> <p>満洲里の独立歩兵第五八六大隊に派遣の一ヶ小隊中一部は所属隊に復讐したが</p> <p>大な損害を受けた。</p> <p>日「ソ」開戦に伴ない海拉爾二地区陣地（河南台）に入り「ソ」軍と交戦し甚</p> <p>主力の状況</p> <p>部隊主力は海拉爾近郊遊撃拠点陣地構築作業実施</p> <p>構築作業援助のため興安嶺に派遣</p> <p>第一中隊長吉野中尉を長とする混成中隊（約二三〇名）を第一一九師団の陣地</p> <p>第二中隊の一ヶ小隊を独立歩兵第五八六大隊に配属し満洲里に派遣</p> <p>爾後海拉爾付近にて資材糺抹の輸送に従事</p> <p>興安北省海拉爾において輜重兵第一一九連隊からの抽出人員をもつて編成完結</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>							
<p>通称号 満第七四四部隊 鋭鋒第二五二九四部隊</p>							
<p>独立歩兵才八〇旅団輜重隊略歴</p>							
<p>略 歴</p>							
<p>摘要</p>							

0503

至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自			
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	11	11	11	11
21	18	16	2	15	1	20	16	16	9	25	18	18	15
隊 長		少佐 岡田稔		滿洲里經由入「ソ」		齊々哈爾出発		齊々哈爾第一第九作業大隊に編入		齊々哈爾着		博克圖に集結、武装解除	
								中停戦		日「ソ」開戦後も引続き陣地の補強及所在各部隊への軍需品の輸送業務に従事		興安嶺派遣隊の行動	
										滿洲里經由入「ソ」		海拉爾出発	

至自至自		昭 20	年 月 日	略 歴	摘 要
9 9 9 9 8	8 8	7 7			
123 10 5 27	23 9	30 10			
旅団長 少将 宇部 四雄		独立混成第一三一旅団司令部略歴 通称号 奮進第三七五一二部隊 軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍隷下各隊よりの抽出人員および現地 応召者をもつて編成完結。 爾後現地応召者の教育訓練および哈爾濱市内の警備に任じた。 日ノ開戦と同時に哈爾濱市街の警備およびその周辺の防衛に任じた。 哈爾濱成高子において武装解除。 同日哈爾濱香坊出発、途中横道河子で下車海林まで行軍。 牡丹江省海林到着。 第一〇七、第一〇九作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。			

0505

昭 20		年 月 日	略 歴	摘 要				
至自至自								
11	10				9	8	8	8
29	12	中旬	10	27	23	9	30	10
大隊長 大尉 千田 謙三郎		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隸下各隊より抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。 爾後同地付近の警備に任じた。 日「ソ」開戦にともない哈爾濱市街の防衛に任じた。 哈爾濱において武装解除。 同日香坊出発、途中横道河子で下車し海林まで行軍。 牡丹江省海林到着。 同地において第一〇七、第一四九、作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p>						

独立歩兵第七七九大隊略歴

通称号 奮進第三七五一三部隊

略

歴

摘要

0506

至自至自		昭	年 月 日	略 歴	摘 要				
11	10	9				8	8	7	7
29	2	中旬				5	27	23	9
大隊長 大尉 田代 栄一		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍の各隷下各隊よりの抽^出人員と現地 応召者をもつて編成完結。 爾後教育訓練および同地付近の警備に任じた。 日「ソ」開戦により哈爾濱市内の警備および治安維持。 哈爾濱香坊に集結同地において武装解除。 同日香坊出発途中横^街河子で下車し海林まで行軍。 牡丹江省海林に到着。 第一〇九、第一四九作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p>							

独立歩兵第七八〇大隊略歴

通称号 奮進第三七五二四部隊

0507